

患者さまへ

「急性冠症候群患者の不安定プラークに対する SGLT2 阻害薬の効果について 後ろ向き検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2019 年 3 月～2022 年 3 月に当院で急性冠症候群の治療を受けられ、かつ 2 型糖尿病を有する方
2 研究目的・方法	本研究は急性冠症候群 (acute coronary syndrome; ACS) を発症した 2 型糖尿病患者さまに対して、ACS 急性期のカテーテル治療時と半年後のフォローアップ冠動脈造影検査 (coronary angiography; CAG) 時での血管内画像光干渉断層撮影 (optical coherence tomography; OCT) におけるプラークの形態学的変化を評価し、ナトリウム糖共輸送体 2 阻害薬 (sodium glucose co-transporter 2 inhibitors; SGLT2 阻害薬) 投与群と非投与群にて比較することを目的としています。プラークの形態学的な評価は、OCT での線維性被膜の厚み、脂質プラークを有するスライスでの脂質プラークの角度、内腔面積を急性期治療時とフォローアップ時で比較します。SGLT2 阻害薬のプラークへの影響が明らかとなることにより今後 SGLT2 阻害薬がプラーク増大を抑制し ACS 治療薬のひとつになると考えられます。 研究の期間：施設院長許可後～2023 年 12 月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。
4 研究に用いる情報の種類	情報：年齢、性別、病歴、内服薬、採血データ、心臓カテーテル所見 等
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 宍戸 晃基 湘南鎌倉総合病院 循環器内科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号：0467-46-1717